

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 3 年 5 月 19 日現在

機関番号： 9 9 9 9 9
 研究種目： 奨励研究
 研究期間： 2020 ~ 2020
 課題番号： 2 0 H 0 0 7 8 3
 研究課題名 中学校家庭科「防災・災害に関する食教育」授業のモジュール化及び動画教材の開発

研究代表者

小林 裕子 (KOBAYASHI, YUKO)

兵庫教育大学・大学非常勤講師

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 480,000 円

研究成果の概要：短時間でより効果的な「災害時の食」教育指導を可能にするため、授業のモジュール化を行った。その上で、教員対象全国調査での要望が多数であった授業実践をサポートする教材をパッケージ開発した。まず、モジュール学習の実践モデルとなる、学習指導案を作成した。そして各モジュール学習実践に対応したワークシート、及び2～3分程度の長さで学習内容を確認できる動画教材を作成した。授業のモジュール化、および教材のパッケージ作成により、教員の授業準備の負担軽減と、食の防災教育に関する専門知識の補完が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自然災害大国である我が国にとって、児童生徒への「災害時の食」教育は、系統的・かつ実践的に行い、知識や技能を育むべきである。本研究で行った、「災害時の食」教育授業のモジュール化、および教材のパッケージ作成により、中学校家庭科教員の授業準備の負担軽減と、「災害時の食」教育に関する専門知識の補完が可能となった。これにより、学校教育における「災害時の食」教育推進の一助となり得ると考える。

研究分野：家庭科教育

キーワード：家庭科教育 災害時の食教育 モジュール学習

1. 研究の目的

被災生活では、生命や健康に直結する食の問題が毎回深刻である。公助に頼る食の支援では量的・質的に被災者ニーズへの対応は困難となるため、市民レベルでの食の自助力の育成・向上が欠かせない。これは学校教育の課題ともいえるが現状では十分とはいえない。

学校教育において食教育を担う教科である家庭科では、災害時に対応できる児童生徒の食の自助力を育成・向上させる食教育は十分に確立されているとはいえない。家庭科教育に「防災・災害に関する食教育」を位置づけ、その必要性や有用性を明らかにする必要があると考え、これまでの研究を進めてきた。教員対象に実施した全国調査の結果、半数以上の教員が「家庭科での指導が必要」とした学習項目数に比べ、実際の学習実施はかなり少ないことが明らかとなった。理由は「授業時間の不足」が最多で、続いて「教科書への掲載の少なさ」「適切な動画教材の不足」等であった。この問題の解決には、開発した3時間分の学習内容（有用性実証済み）を、指導に適した単位にモジュール学習化（小分け）を行うこと、教員の授業実践をサポートするための動画教材を開発することが効果的であると考えられる。

そこで、本研究では有用性が認められた3時間構成の学習内容（小林・永田 2017）を、10分程度の短時間指導が可能となるようモジュール学習化し、サポート教材としての動画開発を行うことを目的とする。

2. 研究成果

【方法】

研究は以下の4つの手順で進めた。

- (1) 小林・永田（2017）で開発した3時間構成の授業及び家庭学習の内容を新学習指導要領に準じ、改訂する。
- (2) 改訂した授業を最小単位の学習内容・活動に分割する。
- (3) (2)の学習内容・活動を位置付けた年間カリキュラムを作成する。
- (4) 分割した学習内容・活動に対応したモジュール学習教材を作成する。

【結果】

- (1) 新学習指導要領に準拠するよう、小林・永田（2017）の授業内容及び学習目標・評価等を改訂した。また、検討の上新たな学習内容として「災害時の食の問題を理解する」を追加した。
- (2) 「災害時の食」教育に関する36項目の学習内容・学習活動を基準として、改訂した授業内容を10分程度の短時間で指導が可能なモジュール（短時間学習）に分割した。3時間分の授業内容を、13モジュール、家庭学習が9モジュールに再構成した。
- (3) 分割したモジュールについて、既存の食生活の学習内容と関連づけた指導が可能になるよう、年間カリキュラムの適切な単元に位置づけを示した。
- (4) 分割した各モジュールの指導をサポートする学習教材として、教員が授業で利用できるワークシート、2種類のプレゼンテーション教材を作成した。また、作成した教材を活用した授業モデルとなる学習指導案を作成し、教材とセットにした提供を可能にした。

【今後の課題】

今後は、開発したモジュール学習教材を複数の中学校家庭科教員に提示し、インタビュー調査及びアンケート調査を実施し、評価を得る予定である。さらに評価結果から開発したモジュール学習教材の有効性を明らかにすることを目指す。

【引用・参考文献】

- 小林裕子・永田智子．(2017)．中学校家庭科における「災害時の食」の授業開発と有効性の評価．日本家庭科教育学会誌．他
- 小林裕子・永田智子．(2019a)．家庭科教科書における「防災・災害に関する食教育」の記述分析：現行の小・中・高等学校家庭科教科書を対象に．四天王寺大学紀要．
- 小林裕子・永田智子．(2019b)．家庭科教員の防災・災害に関する食教育の意識と実態：小・中・高等学校家庭科教員対象全国調査より．日本家庭科教育学会誌．

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1．著者名 小林裕子・永田智子	4．巻 63(63)
2．論文標題 中学校家庭科献立作成授業における料理レシピサイト活用の有効性－災害時を想定した備蓄食品を用いる献立作成を対象として－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本家庭科教育学会誌	6．最初と最後の頁 59 - 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1．発表者名 小林裕子・永田智子
2．発表標題 中学校家庭科「災害時の食」教育に関するモジュール学習教材の開発
3．学会等名 日本家庭科教育学会
4．発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------